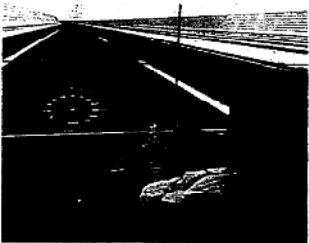


運転中、また赤信号……イライラしやすいのは高齢者



実験のイメージ＝川合伸幸・名古屋大准教授提供

名大准教授ら実験 若者と比較

運転中に赤信号が続くと、若者は怒りを感じないが、高齢者は怒りを感じやすい。こんな実験結果を名古屋大の川合伸幸教授(認知科学)らの研究グループがまとめた。日本心理学会の学会誌に掲載した。

川合さんのグループは大型画面を見ながら運転する模擬装置を使い、何度も赤信号で停止させられると怒りを感じる状態になるのか、学生と高齢者で調べた。実験には65～74歳の高齢者20人と19～31歳の学生22人が参加。4回連続で赤信号で車を停止するなどの条件で、1人ずつ運転して

もらい、その前後の心理テストから怒りを感じた度合いを測定した。

その結果、高齢者のグループでは、怒りを示す数値が安静時よりも高かったが、学生のグループでは変化がなかった。青信号が続く条件で運転してもらったと、高齢者、学生の両グループとも変化はみられなかった。赤信号で停止中に高齢者の脳内の活動を調べると、左前頭葉で「酸化ヘモグロビン」がより増えており、攻撃性が高まっていた。

川合さんによると、怒りを頻繁に感じる運転手は運転が危険になりやすい傾向がある。川合さんは「高齢者は自分がイライラしやすくなる可能性があることを知り運転に注意してほしい。今後は運転中のイライラを鎮める方法などを研究していきたい」と話す。

(西川迅)